

MIDORI NO SHONENDAN



緑の少年団なかしべつ冒険クラブ



ながぬま緑の少年団



中茶安別緑の少年団

地元の野外フィールドで緑に親しみ、自然を学ぶ緑の少年団。
おそろいのユニフォームで全国植樹祭・全国育樹祭に参加する
元気な子どもたちの姿を目にした方も多いことでしょう。
緑の少年団は、全国で3,168団体・約32万人*を数え、
地域で入団することも、新たに団を結成することもできます。
各地の特色を生かした個性的な活動の具体例をご紹介します。

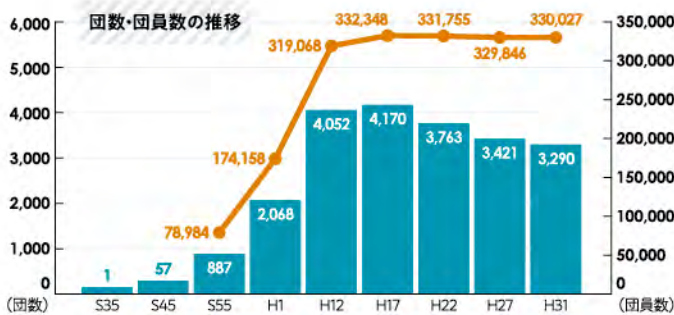
*令和3年1月現在

「緑の少年団」
次代へ託す
緑のバトンを

体験がある

ここでしか得られない

ここでしか得られない体験がある
緑のバトンを次代へ託す
「緑の少年団」



活躍が注目され相次ぎ結成
今年も全国育樹祭でも活躍

緑の少年団の前身は、昭和35年に国土緑化推進委員会が結成を呼びかけた緑化推進の少年団「グリーン・スカウト」です。北海道の第1号は、昭和31年結成の札幌市南区の藤の沢小学校小鳥の村。全国に先駆けて児童の自然学習を行っていました。その後は全国で結成が相次ぎ、「緑の少年団」の統一名称で活動してまいります。

この名が広く知られるようになったきっかけは、昭和49年に岩手県で開催された第25回全国植樹祭での活躍。統一ユニフォームに身を包んだ県内30団体、約1800人の団員による入場行進、大会旗の掲揚や記念植樹お介添えのきびきびとした所作などが、全国からの参加者に鮮烈な印象を焼き付け、各地で緑の少年団結成を促す起爆剤となりました。平成19年に苫小牧市で開催された第58回全国植樹祭においても、道内の緑の少年団が大切な役目を果たしました(写真)。今年10月に北海道で開催される第44回全国育樹祭でも、式典のさまざまな場面で活躍が期待されています。



また、子どもたちにとって緑の少年団は、地元の自然の中での外遊びや、異なる学年の友だちづくりができる魅力的な場でもあります。団数増加に伴い都道府県別や全国レベルでの組織化が進んでからは、活動発表大会や交流大会など広域での活動が加わり、子どもたちは地域を越えたヨコのつながりも得られるようになりました。

具体的な活動内容は、緑の少年団ごとにさまざまです。家族や地域のサポーターによる育成会が、団員と一緒に団則や活動目標をもとに年間計画を立てています。特色ある活動を行っている道内の3団体を例に見てみましょう。



緑の少年団なかしべつ冒険クラブの初代団長は、ボーイスカウトの隊長です。地元の魅力ある自然を、地域の子ともたちと一緒に楽しみ、仲間をつくるために結成されたという経緯もあり、登山、サイクリング、乗馬、わかさぎ釣り、雪像づくりと、四季折々の自然体験活動が充実。年度末の3月には1年間の活動報告を家族に発表します。

一番人気はキャンプで、みんなでつくる料理、キャンプファイヤーでの出し物、テント泊など、非日常体験が大好評。魅力ある活動は新入団の動機にもなっています。保護者たちも、習い事など

どで日々忙しい現代っ子に、学校や家庭ではなかなか得られない自然の中での貴重な体験を望んでおり、その思いも入団に結びついているようです。

現在、地元で就職した卒団者1名が指導者として活躍中。団員だった時は、学校や歳の異なる仲間、中でも高校生のお兄さんお姉さんと一緒に活動するのが楽しかったと語り、今その恩を次の世代に送っているところ。



HIDORI NO SHONENDAN

01

原点にボーイスカウト
四季折々で自然体験

緑の少年団
なかしべつ
冒険クラブ
結成
平成16年
団員数
小2~中3の14名
(小学生10・中学生4)

ここでしか得られない体験がある
緑のバトンを次代へ託す
「緑の少年団」



中茶安別緑の少年団は、約10haの広大な学校林を持つ中茶安別小中学校が、平成12年創設の教科「総合的な学習の時間」に学校林を活用するために結成しました。学校林には、昭和4年の開校時からこれまで10万本以上が植樹され、一昨年にも600本を植えています。

緑の少年団結成後は「学校林活用の幅が広がりました」と太田諭教頭。春は山菜採り、夏は森遊び、秋はロープを使って木に登るツリーイング、冬はスノーシューでのトレッキングと、森の動植物に親しむ活動を通年実施

HIDORI NO SHONENDAN
02
団員は小中学校の全員
学校林を自然学習に活用

中茶安別
緑の少年団
結成
平成17年
団員数
小1~中3の20名
(小学生11・中学生9)



しています。活動拠点は、平成23年のユネスコスクール加盟申請を記念して造られたツリーハウス。昨年は活用方法を検討するプロジェクトで、ハンモックの設置を決めました。

学校林での学びは、ふるさとの自然を再認識する機会にもなっているようで、アンケートでは児童・生徒全員が「地域の自然が好き」と回答。保護者からも「子どもが持続可能な社会の実現に関心を持つようになった」との声がありました。

HIDORI NO SHONENDAN
03
水害からまちを守るため
種採りから森づくり

ながぬま
緑の少年団
結成
平成18年
団員数
小1~6の26名



ながぬま緑の少年団は、水害を防ぐ地域の森を育て、緑豊かな河川空間の創造を目指す「河川愛護団体リバーネット21ながぬま」の内部組織。お盆のような地形をしている長沼町は、過去130年間に70回以上の水害に見舞われており、まちを守る森づくりに地域の子どもたちも一緒に参加できるように、緑の少年団が結成されました。

大人と同じ目標に向かっているので、活動内容は小学生であっても実に科学的です。植樹する苗木は地域の森で種を採取して育て、複数の樹種を植樹して追跡調査を行い、その土地に合う



木を考察。模型を使って森の保水力を実感する実験も行っています。

活動での経験は卒団者の進路にも影響。農業高校や大学の林業科への進学、森林組合での就職のほか、北海道開発局の河川管理者や電力会社のダム管理者になったり、地元の水防団に入ったりさまざまで、「この子たちは仕事の合間に活動に参加して団員を指導してくれています」と山本隆幸代表。森を育て次代へ手渡すサイクルの持続に欠かせない多様な年齢層のメンバーを増やして、世代交代を可能にしたいと願っています。

緑の少年団に入団をご希望の方

緑の少年団には、学校を単位とした団と地域を単位とした団があり、道内では学校26団、地域8団が活動しています。地域の緑の少年団は、その地域に居住し、活動の趣旨に賛同する人ならどなたでも参加できます。

名称	連絡先	電話	メール
しりうち緑の少年団	五十嵐捷爾	090-1528-2193	
京極みどりの少年団	京極町役場産業課	0136-42-2111	sangyo@town-kyogoku.jp
滝川緑の少年団	西村耕司	090-9088-2024	kouji-54@cyber.ocn.ne.jp
ながぬま緑の少年団	山本隆幸	090-8634-4134	yamamoto.takayuki@lemon.plala.or.jp
緑の少年団なかしべつ冒険クラブ	桐島秀一		bouken.club.2004@gmail.com

新たに緑の少年団を結成したい方

結成の手順や活動の進め方などの情報提供をいたします。下記までご相談ください。

公益社団法人北海道森と緑の会
(北海道緑の少年団連絡協議会)
TEL:011-261-9022
https://www.h-green.or.jp/